

カオス

世の中を見てみると、意外と適当だということが判ります。例えば長さ1 mと言っても、そんな長さは、世の中に存在しないのです。かなり乱暴な言い方ですが、つまり、1.000..... mといった0が無限に続く長さは加工できないし、確認の測定器が存在しない。丁度1 mというものが存在するかも知れませんが存在しないに等しいのです。そこで、知恵を絞って、9.9 m~10.1 mの範囲だったら加工できるし、使用に支障がきたさなければ、その長さに満足する。その長さを9.99~10.10 m加工するとなると、それだけ高精度に加工できる機械を使用し、手間もかかるため、コストが高くなってくる。だから、時と場合、経済的にも無駄となる。だから、使用目的に応じて、精度を決めて、加工し、使用する。つまり、不正確さで世の中は動いているのです。

写真家が定点撮影で風景の写真を撮影したとします。シャッターを100回切ったとしても、同じ写真はできません。それは刻々と移り行く光と影、建物や木々は風化したり、成長したりしております。シャッターを切るにしても、速度、露出、ホワイトバランス等々を設定しなければならないし、それをプリントするにも、インクや印画紙の違い、大きさの違いによっても、できばえは違います。見る目も人間の脳細胞も変化し、見る人の感覚や感情も異なります。写真家が感覚的に1枚の写真を選択しても、完璧な選択かどうか判らないのです。その作品を評価する人たちも曖昧です。世の中はすべて曖昧模糊。つまり、カオスの世界です。だから私たちは生きていく上に、完璧には生きられない。完璧さを目標にして、現在のあるがままの姿で、精一杯に生きて行くことで良いのではないのでしょうか。